

輸送機に長射程ミサイル

防衛省が搭載検討

塩川議員が

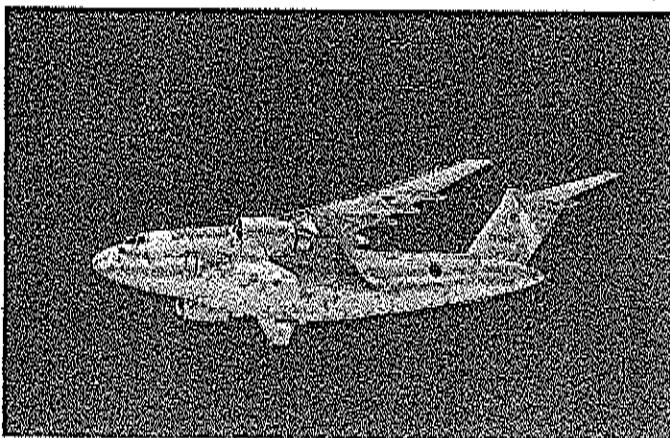
3月に追及

す。

防衛省は航空自衛隊のC2輸送機に長射程ミサイルを搭載する検討に入りました。攻撃機能を持たない輸送機を攻撃機化するもので、遠隔の敵基地攻撃能力としての使用も想定しています。C2は主要な戦闘機よりも多くのミサイルの搭載が見込まれ、航続距離もはるかに長いため、長射程ミサイルの搭載・発射が可能となれば、より広範囲を攻撃できます。

同省が検討するのは、ミサイルを積んだ容器ごと投下し、空中でエンジンに点火し、発射する方式。大きな機体改修を伴わないのが特徴で、米空軍も「アビットドドラゴン」と呼ばれる同様の技術を開発しています。

広範囲の攻撃可能に



C-2輸送機(航空自衛隊ホームページから)

す。

日本共産党的塩川鉄也議員は3月の衆院内閣委員会で、同問題を追及。防衛省は、C2だけでなくC-130輸送機への長射程ミサイル搭載も「可能性は排除しない」と認め、米空軍のアビットドドラゴンも参考にすると明らかにしました。

C2は入間基地(埼玉県狭山市、入間市)と美保基地(鳥取県境港市)に配備。航続距離は20トンの貨物を積んだ状態で約7600キロ、貨物を積んでいない状態で約9800キロに上ります。海外への緊急援助物資の輸送のほか、邦人避難任務として、21年のアフガニスタン、今年のスマーランにも派遣されました。

塩川議員が3月に追及した後、本格的な開発に着手する見通しだった。

同省が検討するのは、ミサイルを積んだ容器ごと投下し、空中でエンジンに点火し、発射する方式。大きな機体改修を伴わないのが特徴で、米空軍も「アビットドドラゴン」と呼ばれる同様の技術を開発しています。

調達は行わず、米国製

上型(同約1000

機)が候補となりま

す。

2025年度予算に

関連経費として約36億

円を計上し、24年度ま

でに技術的な研究を行

った後、本格的な開発

に着手する見通しで